

野村豪ドル債オープン・プレミアム 毎月分配型

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第114期(決算日2021年9月13日) 第115期(決算日2021年10月13日) 第116期(決算日2021年11月15日)
第117期(決算日2021年12月13日) 第118期(決算日2022年1月13日) 第119期(決算日2022年2月14日)

作成対象期間(2021年8月14日～2022年2月14日)

第119期末(2022年2月14日)	
基準価額	6,192円
純資産総額	19,082百万円
第114期～第119期	
騰落率	△ 4.2%
分配金(税込み)合計	120円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、ノムラ・ストラテジック・ファンダー・オーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム・J-AUDクラス受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として信用力の高い、豪ドル建て公社債に実質的に投資を行ないます。また「通貨プレミアム戦略」を実質的に活用します。インカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目指します。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

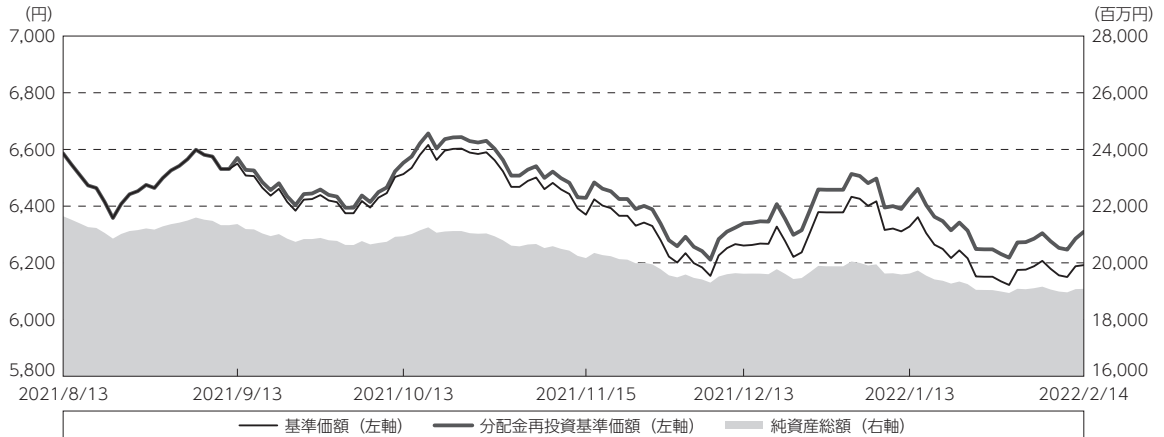


ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2021年8月14日～2022年2月14日)



第114期首：6,586円

第119期末：6,192円 (既払分配金(税込み)：120円)

騰落率：△ 4.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2021年8月13日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

- ・債券保有による利息収入を得られたこと。
- ・豪ドルが対円で上昇(円安)したこと。

(下落要因)

- ・保有する債券の価格が下落したこと。

1万口当たりの費用明細

(2021年8月14日～2022年2月14日)

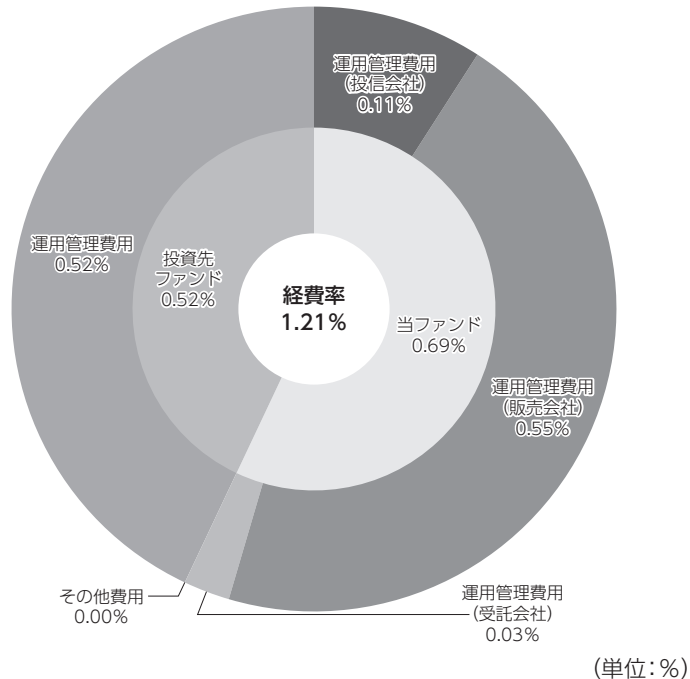
項 目	第114期～第119期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 22	% 0.351	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(4)	(0.056)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(18)	(0.279)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	(1)	(0.017)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) その他費用	0	0.001	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	22	0.352	
作成期間の平均基準価額は、6,369円です。			

- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。
- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.21%です。



経費率 (①+②)	1.21
①当ファンドの費用の比率	0.69
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.52

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

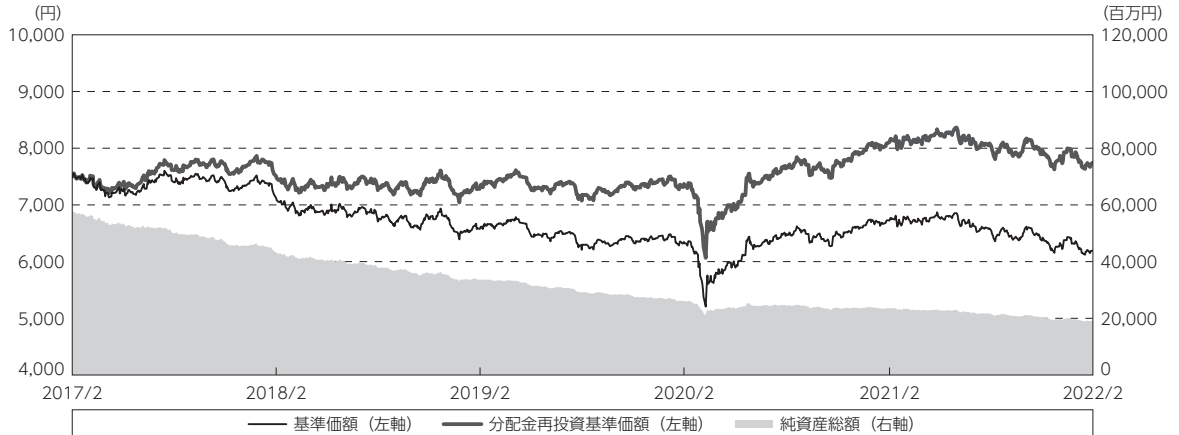
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2017年2月13日～2022年2月14日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2017年2月13日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2017年2月13日 決算日	2018年2月13日 決算日	2019年2月13日 決算日	2020年2月13日 決算日	2021年2月15日 決算日	2022年2月14日 決算日
基準価額 (円)	7,494	7,118	6,581	6,347	6,724	6,192
期間分配金合計(税込み) (円)	—	390	360	280	240	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	0.2	△ 2.5	0.7	10.0	△ 4.5
純資産総額 (百万円)	57,414	43,279	33,615	26,175	23,515	19,082

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

投資環境

(2021年8月14日～2022年2月14日)

債券市場では、10月にイールドカーブ・コントロールの対象としている国債の利回りが誘導目標の水準を上回る中、RBA（豪州準備銀行）が対象国債の買入を見送ったことで、市場の一部でRBAがイールドカーブ・コントロール政策を終了するとの観測が高まったことなどを受けて、豪州の債券利回りは上昇（価格は下落）しました。11月の金融政策決定会合において、RBAがイールドカーブ・コントロール政策の終了を決定した後、新型コロナウイルスの新たな変異株の経済への悪影響に対する懸念などから豪州の債券利回りは低下（価格は上昇）する局面も見受けられましたが、当作成期を通じてみると、豪州の国債、国際機関債等の利回りは上昇しました。

豪ドルについては、新型コロナウイルスの新たな変異株への警戒感が強まったことなどを受けて、豪ドルは対円で下落（円高）する局面もありましたが、2021年7-9月期消費者物価統計の結果が市場予想を上回ったことでRBAによる利上げの前倒しが意識されたことや、11月の雇用統計が市場予想を上回ったことなどを受けて、豪ドルは円に対して上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2021年8月14日～2022年2月14日)

[野村豪ドル債オープン・プレミアム毎月分配型]**<投資信託証券等の組入比率>**

〔野村豪ドル債オープン・プレミアム毎月分配型〕は、当作成期を通じて、〔ノムラ・ストラテジック・ファンダーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス〕 受益証券を概ね高位に組み入れ、また〔野村マネー マザーファンド〕 受益証券への投資も行ないました。

〔ノムラ・ストラテジック・ファンダーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス〕

<ポートフォリオ>**・債券組み入れとファンドデュレーション**

信用力の高い国際機関債や国債を中心としたポートフォリオとしており、当作成期末時点での債券組入比率は97%となりました。当作成期末時点でのファンドのデュレーション^(※)は、6年程度としています。

(※) デュレーションとは、債券の利回り変化に対する価格変化の感応度を表し、数値が大きいほど利回り変化に対する価格変化が大きくなります。ファンドデュレーションとは、債券デュレーション×債券組入比率で表されます。

・オプション

オプションのカバー率は、豪ドル・円の見通しやボラティリティ（価格変動性）の状況に応じて柔軟に調整し、当作成期末では48%としました。当作成期末時点の平均行使価格は104%となりました。

[野村マネー マザーファンド]

当作成期を通じて残存1年以内の公社債等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図りました。

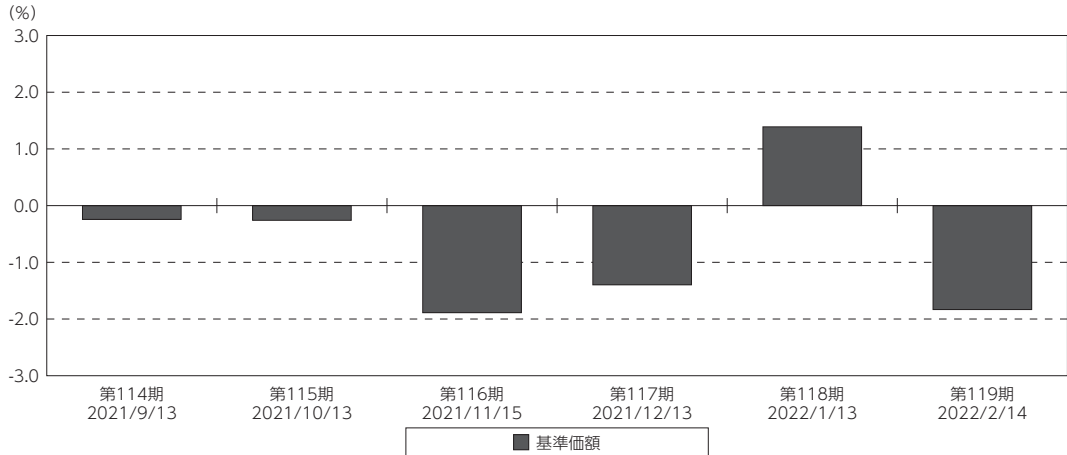
当ファンドのベンチマークとの差異

(2021年8月14日～2022年2月14日)

当ファンドは、主として外国籍ファンドに投資するファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、作成期間中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。

基準価額（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2021年8月14日～2022年2月14日)

分配金については、利子配当収入や基準価額水準等を勘案し、決定いたしました。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項 目	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期
	2021年8月14日～ 2021年9月13日	2021年9月14日～ 2021年10月13日	2021年10月14日～ 2021年11月15日	2021年11月16日～ 2021年12月13日	2021年12月14日～ 2022年1月13日	2022年1月14日～ 2022年2月14日
当期分配金 (対基準価額比率)	20 0.304%	20 0.306%	20 0.313%	20 0.318%	20 0.315%	20 0.322%
当期の収益	18	18	17	18	20	18
当期の収益以外	1	1	2	1	—	1
翌期繰越分配対象額	1,910	1,909	1,907	1,906	1,907	1,906

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

[野村豪ドル債オープン・プレミアム毎月分配型]

ファンドの商品性に従い、[ノムラ・ストラテジック・ファンドーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-JAUDクラス] 受益証券への投資比率を引き続き高位に維持していく方針です。

[ノムラ・ストラテジック・ファンドーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-JAUDクラス]

信用力の高い、豪ドル建て公社債（国際機関債、国債、政府機関債、準政府債（州政府債）、社債等）を主要投資対象とし、インカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。

円に対する豪ドルのコール・オプションを売却し、オプションのプレミアム収入の獲得を目指します。

<投資戦略>

・債券組み入れとファンドデュレーション

引き続き国際機関債を中心に組み入れます。デュレーションについては、グローバルな経済環境の変化や豪州の金融政策の方向性を見極めながらコントロールします。

・オプション

豪ドル・円の見通しやボラティリティの状況に応じて、売却するオプションの行使価格やカバー率を柔軟に調整します。

なお、当ファンドは証拠金規制に則り、規制対象取引の評価損益について取引の相手方と証拠金の授受を行なう場合があります。

[野村マネー マザーファンド]

残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図って運用いたします。

日本銀行によるマイナス金利政策のもと、主要な投資対象となる公社債の利回りや余資運用の際のコール・ローンの金利もマイナスとなるなか、マイナス利回りの資産への投資等を通じて、基準価額が下落することが想定されますのでご注意ください。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

該当事項はございません。

当ファンドの概要

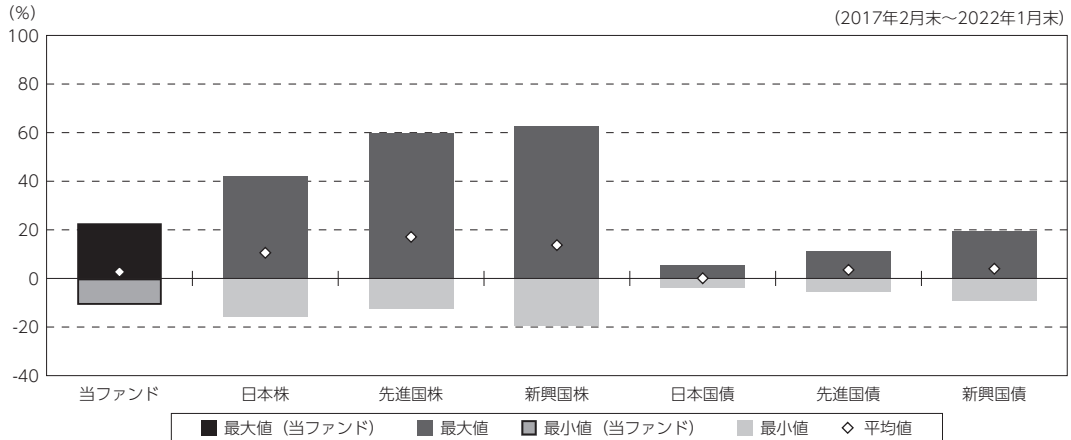
商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2012年2月17日から2027年2月15日までです。	
運用方針	主として、円建ての外国投資信託であるノムラ・ストラテジック・ファンドーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス受益証券および円建ての国内籍の投資信託である野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、信用力の高い、豪ドル建て公社債を実質的な主要投資対象とし、インカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目指します。 各受益証券への投資比率は、通常の状況においては、ノムラ・ストラテジック・ファンドーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス受益証券への投資を中心としますが、特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。	
主要投資対象	野村豪ドル債オープン・プレミアム毎月分配型	ノムラ・ストラテジック・ファンドーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	ノムラ・ストラテジック・ファンドーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス	信用力の高い、豪ドル建て公社債（国際機関債、国債、政府機関債、準政府債（州政府債）、社債等）を主要投資対象とします。
	野村マネー マザーファンド	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
運用方法	ノムラ・ストラテジック・ファンドーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス受益証券および野村マネー マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として信用力の高い、豪ドル建て公社債に実質的に投資を行ないます。また「通貨プレミアム戦略」を実質的に活用します。インカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目指します。	
分配方針	毎決算時に、原則として、利子・配当等収益等を中心に分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては売買益等が中心となる場合があります。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。	

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行なわれており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響を受け、当該金融取引を行なうための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	22.7	42.1	59.8	62.7	5.4	11.4	19.3
最小値	△ 10.9	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 4.0	△ 5.4	△ 9.4
平均値	2.7	10.6	17.1	13.7	0.1	3.5	4.0

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2017年2月から2022年1月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

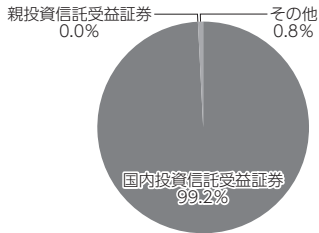
組入資産の内容

(2022年2月14日現在)

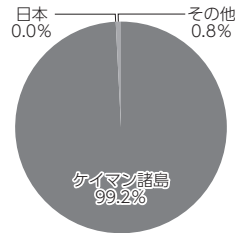
○組入上位ファンド

銘柄名	第119期末
ノムラ・ストラテジック・ファンダーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス	99.2%
野村マネー マザーファンド	0.0%
組入銘柄数	2銘柄

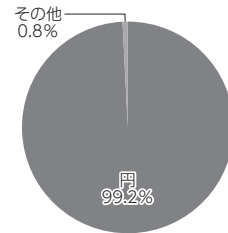
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

純資産等

項目	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末	第118期末	第119期末
	2021年9月13日	2021年10月13日	2021年11月15日	2021年12月13日	2022年1月13日	2022年2月14日
純資産総額	21,367,808,922円	20,938,569,515円	20,168,665,637円	19,616,489,238円	19,623,236,434円	19,082,956,819円
受益権総口数	32,624,576,574口	32,149,442,018口	31,661,555,533口	31,332,902,503口	31,008,456,877口	30,819,805,369口
1万口当たり基準価額	6,550円	6,513円	6,370円	6,261円	6,328円	6,192円

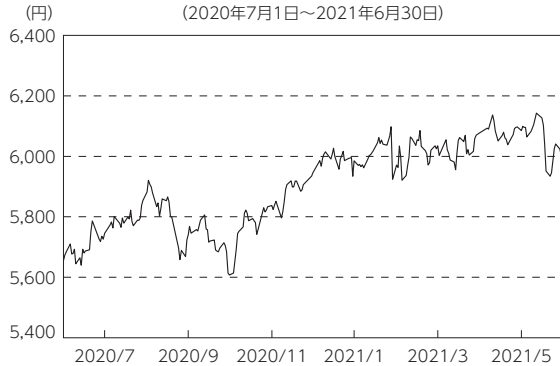
(注) 当作成期間中（第114期～第119期）における追加設定元本額は100,761,111円、同解約元本額は2,142,345,474円です。

組入上位ファンドの概要

ノムラ・ストラテジック・ファンドーオーストラリア・ボンド・アンド・カレンシー・プレミアム-J-AUDクラス

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。
運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【純資産価格の推移】



(注) 分配金を分配時に再投資したものと計算しております。

【1万口当たりの費用明細】

(2020年7月1日～2021年6月30日)

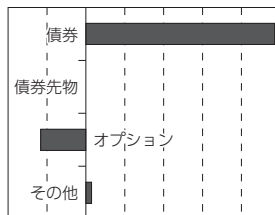
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2021年6月30日現在)

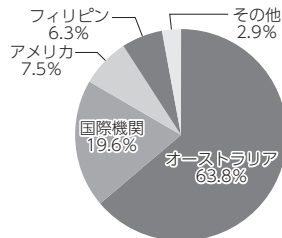
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1	AUSTRALIA GVT 4.75% 21/04/27 136	国債	豪ドル	オーストラリア	7.7%
2	INTL BK REC&DEV 3% 19/10/26 MTN	普通社債	豪ドル	オーストラリア	7.3%
3	AUSTRALIA GVT 2.25% 21/05/28 149	国債	豪ドル	オーストラリア	7.1%
4	INTL BK REC&DEV 4.25% 24/06/25 MTN	普通社債	豪ドル	アメリカ	6.8%
5	NEW S WALES TREAS 3% 20/02/30	国債	豪ドル	オーストラリア	5.2%
6	NEW S WALES TREAS 3% 20/03/28	国債	豪ドル	オーストラリア	5.2%
7	NEW ST WALES TREAS 4% 20/05/26 26	普通社債	豪ドル	オーストラリア	4.9%
8	ASIAN DEV BANK 0.5000% 05/05/26 MTN	普通社債	豪ドル	オーストラリア	4.9%
9	INTL FIN CORP 0.7500% 24/05/28	普通社債	豪ドル	国際機関	4.8%
10	ASIAN DEV BANK 3.7500% 12/03/25 MTN	普通社債	豪ドル	国際機関	4.4%
組入銘柄数			29銘柄		

【資産別配分】

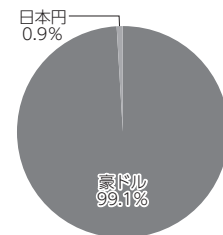


-40.0 -20.0 0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 (%)

【国別配分】



【通貨別配分】



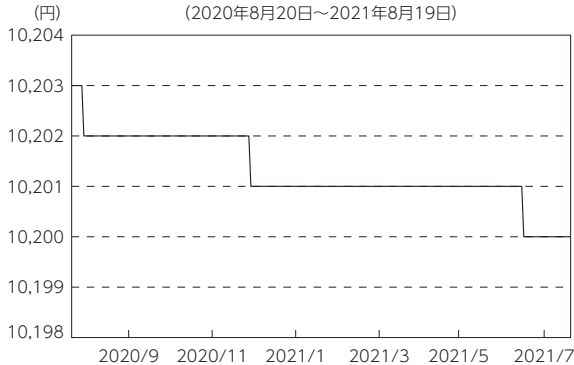
- (注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
 (注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書 (全体版) に記載しております。
 (注) オプションは、想定元本の純資産総額に対する割合を表示しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

野村マネー マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】

(2020年8月20日～2021年8月19日)



【1万口当たりの費用明細】

(2020年8月20日～2021年8月19日)

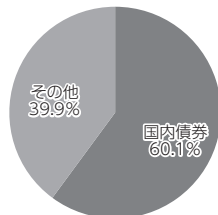
該当事項はございません。

【組入上位 10 銘柄】

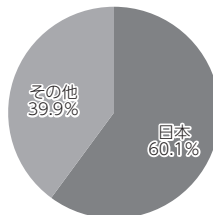
(2021年8月19日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	クレディセゾン 第53回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	6.6
2	共同発行市場地方債 公募第102回	地方債	円	日本	5.5
3	首都高速道路 第19回	特殊債	円	日本	5.5
4	三菱UFJリース 第43回社債間限定同順位特約付	社債	円	日本	5.5
5	商工債券 利付(3年)第223回	金融債	円	日本	5.5
6	阪神高速道路 第19回	特殊債	円	日本	5.0
7	しんぎん中金債券 利付第322回	金融債	円	日本	4.9
8	熊本県 公募平成23年度第2回	地方債	円	日本	3.7
9	中部電力 第522回	社債	円	日本	3.3
10	広島市 公募平成23年度第2回	地方債	円	日本	2.2
組入銘柄数			22銘柄		

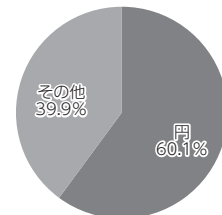
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
 (注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書 (全体版) に記載しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、株式会社東京証券取引所 (㈱東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(㈱東京証券取引所) が有しています。なお、本商品は、(㈱東京証券取引所) により提供、保証又は販売されるものではなく、(㈱東京証券取引所) は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行なわれる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます) についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMS LLC」と呼びます) (「指数スポンサー」) は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMS LLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行なう際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)